

JIS-LAN-JACK端末処理要領書

1,UTP ケーブルの準備

適用電線は,AWG24-22 単線 UTP)

- (1) ケーブルのシースを約 30mm ~ 50mm ストリップします。
- (2) シースストリップ時に芯線及び芯線の外皮(絶縁体)に傷をつけないよう注意
- (3) 各ペア・ワイヤ(導体)でのキンクが無きことを確認します。

2, ジャックへのケーブル引き込み(図2参照)

(ストレート エントリー方法)

ジャックの上下タワー間中心部にケーブルを置いてください。

ジャックの隣接タワー間に IDC コンタクトがあり、この結線部からの対よりの戻り量を最小限に押さえます。

(サイド エントリー方法)

ジャックの上下タワー間の横からケーブルを入れてください。

結線部からケーブルジャケット端面までは、2.5 mm以内とします。

3. 成端方法

- (1) 端末を行うジャックを図1のように配置します。
- (2) 各タワー(先端が尖った)にケーブリングシステム(配線シーケンス)T568AおよびT568Bの色表示に合わせてジャック スロットに予備配線します。
先端が尖ったタワーの根元まで対よりを保ってください。
- (3) 終端キャップ(ジャックに添付)を使用して最後まで押し込みます。
ジャック スロットの根元までワイヤが押し込まれていることを確認してください。
ワイヤの余長は、ニッパー等で切断します。(図3)
また、IDCパンチダウンツールにて芯線の圧接と余長の切断を行う工法も可能です。
(露出型情報コンセント UDXシリーズは、IDCパンチダウンツールのみ)

(注意事項)

- IDCパンチダウンツールは、弊社製品番号 31-C001 相当品をご使用ください。
- 同一のケーブリングシステムに T568A と T568B のピン配列を混在しないでください。

